

黒松と共に歩む 村の物語

今月の表紙



毎年リジェネプロジェクトに参加している小学3年生のお二人。「村のために松を植えられてうれしかったです」と植樹体験の感想を話してくれました。

日常に溶け込む 村の木「黒松」

皆さんは「東海村の木」が何か知っていますか。正解は「黒松」です。海岸線をはじめ、村内の至る所で目にする黒松は、村発足25周年を記念して、昭和55年に村の木として制定されました。

村の木「黒松」は、村内各所で目にすることができます。例えば、カフェやほっとも屋さんの商品ロゴマーク、小中学校の校歌やお店の壁面、塗り絵など、日常のあらゆるシーンで見ることができます。このように幅広い場面で活用され、村の木にも選ばれている黒松ですが、この木が重要視されるのには特別な理由があるのです。

黒松が村を守る

かつての村松海岸は、砂丘が広がり、当時の人々は海から吹き付ける

株式会社テルズ

黒松を商品ロゴマークに使用。生産から加工まで自社で手掛け、甘味が凝縮されたほいもを販売。



「紅はるか平干し」



カスミフードスクエア
舟石川店の壁面



村松小学校校歌より
一部抜粋

東の海の朝夕に
はるばる寄せてかえす波
松の緑のかわらない
誠もかたく身につけて
明日を望んでたゆみなく
わが足取りのたくましさ
努める村松小学校



村松小学校校歌より
一部抜粋



―100年前から村民が紡いできた―

東海村砂防林の軌跡

砂に苦しめられる人々

約100年前、村松海岸には砂丘が広がっていました。海から吹き付ける潮風は砂を飛ばし、次々に砂山をつくり、周辺に暮らす人々を苦しめていました。

当時の村松村の村長によると、「まるで津波が押し寄せてくるように、また溶岩が噴火して流れてくるように砂が押し寄せてくる」「飛砂の被害は本当にひどい状況で300軒あまりの集落や寺社はいまにも砂の中に埋まってしまいう危機に瀕している」と表現されています。

知事に嘆願書を提出

大正7年、村松村の村長は、村民の生活を飛砂から守るため、茨城県知事に嘆願書を提出しました。

そこには、先に述べた砂の被害に関する現状と、「このままでは先祖代々の土地を離れなければならなりません。どうか助けてください」といった悲痛な思いが書かれています。

砂防林の造成に着手

嘆願書や多くの人々の働きかけにより、村松海岸は大正7年に農商務省による「海岸砂防林造成二関スル試験地」に選ばれました。

大正7年から、河田杰農学博士を中心に海岸に砂防林(砂や潮風の被害を防ぐために植えられた森林)を植える研究が始まりました。河田博士は海岸に林を造成する方法について研究し、その結果、海岸には黒松が適していることが判明しました。その後、河田博士が研究した「海岸砂防造林法」に基づき、約35年もの時間をかけて、およそ184ヘクタールの海岸に約220万本の黒松が村民の手によって植えられました。

村民を守る砂防林

村民の願いは、河田博士の尽力と村民の協力により実現しました。

植樹に携わった村民は、約2万3000人。長い年月をかけて先人たちが一本一本植えてきた黒松は、今もお、砂防林として現代の私たちを守ってくれています。

01 約100年前

2



02 約100年前

3



03 約50年前

4



かつて大風が吹き続けて砂に埋まってしまったムラがあった

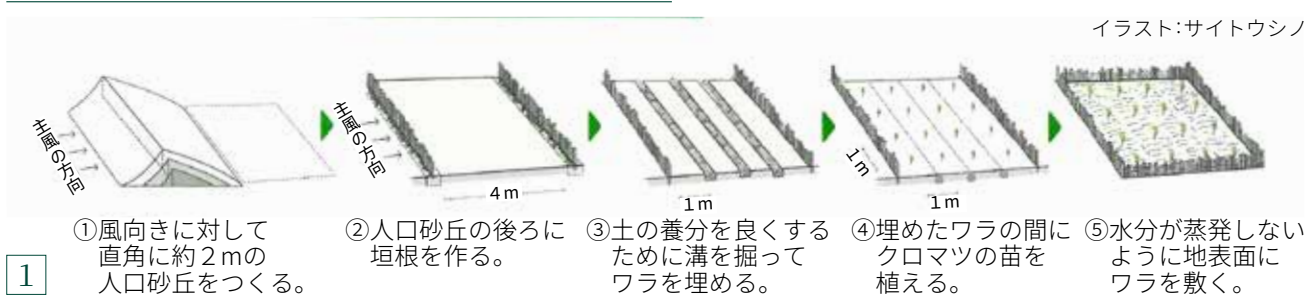
千々乱風伝説

村松海岸には、大風によりムラが砂に埋まったという千々乱風伝説が伝わります。平成15年、工事中に砂の中から遺跡が発見され、伝説は本当であったことが判明しました。砂の中から発見されたのは、約500年前の塩作りを営むムラでした。なぜこのムラは砂に埋まってしまったのでしょうか。

塩作りには海水を煮詰めるための薪が必要です。このムラでは塩を作るために薪として木の伐採を続けた結果、砂を遮っていた木までも切ってしまったため、押し寄せる砂を防ぐことができず、砂の中に姿を消したのではないかと考えられています。伝説のムラはどのようなムラだったのか、詳しくは歴史と未来の交流館へお越しください。



河田博士が研究した海岸砂防造林法



※ 1 2 3 4 …歴史と未来の交流館「展示解説シート」より引用

松葉も枯損木も全てが資源だった

中学生の頃、松葉さらいや砂防林の垣根をつくる手伝いをしていました。松を植樹するためには、風よけとなる砂丘のそばに垣根を作る必要があったんです。垣根は、まず1本6尺(約1.8メートル)の棒を立てるため、スコップで砂浜を3尺(約90センチメートル)掘りました。掘ったそばから砂が流れ込んでくるので大変でした。垣根の根元には、

堆積した砂からハマザク(浜防風)が生えていました。家に持ち帰り、食べたこともあります。他には、周りの人々が枯損木競り(枯れた松の競売)を行っていました。落札した松は、かまどの燃料や、大きいものは家の建築資材として使われました。今ではお金を出して処分する枯れ木も、当時はお金を払って買っていたんです。

松は当時の暮らしに欠かせないもの

小学生の頃は、よく両親と共に砂防林で「松葉さらい」をしていました。当時は、ガスやIHがなかったため、松葉を燃料として使っていたんです。かまどでご飯を炊いたり、五右衛門風呂の湯を沸かしたりするときにも欠かせませんでした。松葉は程よく油分を含んでいるため、火が付きやすかったんです。他には、サツマイモの苗床に

も使いました。苗床に松葉を敷き、水をまき、その上からビニールを敷きます。これにより、松葉が発酵して温度が高くなり、いい苗床が出来上がるんです。松葉さらいは良い思い出です。当時、砂防林ではリスや野ウサギなど野生動物を見ることができたので、手伝い半分、遊び半分で、楽しみの一つでもありました。



東海村愛林組合 深谷 隆さん



東海村愛林組合 宮内 昇さん



この事業は森林環境譲与税を活用しています



リジェネプロジェクト第2期として、令和6年度から新プロジェクト「おいでよ！みんなのクロマツ広場 村松晴嵐『クロマツ林』リジェネプロジェクト「セカンドステージ」」がスタートしました。このプロジェクトでは、雑木により景観が損なわれていた村松晴嵐の碑の東側に、黒松に親しめる広場を整備することを目標としています。2月15日には初回イベント（勉強会・植樹会）が開催され、54人が参加し、約300本の黒松を植樹しました。今後3年間では、継続的な植樹会の実施と計3000平方メートルの広場を整備する予定です。村発足70周年記念事業である本プロジェクトを通じて、砂防林のこれまでを学び直し、未来の砂防林を担う黒松を育てていきます。

セカンドステージ始動

「村松晴嵐『クロマツ林』リジェネプロジェクト」



「村松晴嵐『クロマツ林』リジェネプロジェクト」

先代の想いを紡ぎ今のクロマツを守る

約100年前から先代が植えてきた黒松が、現在松枯れの被害を受けています。そこで、現代の人々が力を合わせ、砂防林を守るためのプロジェクトがスタートしました。

大正7年から先代の人々が守り続けてきた黒松が、現在松枯れの被害を受け、砂防林としての機能と景観が損なわれています。松枯れは主に2種類の虫（マツノザイセンチュウ・マツノマダラカミキリ）により引き起こされます。マツノマダラカミキリを媒介者として、クロマツの体内にマツノザイセンチュウ（体長約1ミリメートル）が入ると、黒松の水を吸い上げる働きが阻害され枯れてしまうのです。この現状から脱却するため、令和元年度から「村松晴嵐『クロマツ林』リジェネプロジェクト」がスタートしました。このプロジェクトは、「森林整備」と「普及啓発活動」の二つの柱を軸に活動しています。

一つ目の柱「森林整備」では、村松晴嵐の碑周辺から八間道路にかけて、除草・整地・黒松の植樹・植樹した幼木への保護ネットの設置などを行い、豊かな景観と砂防林の機能回復を目指しています。二つ目の柱「普及啓発活動」では、学習会や植樹体験を実施しています。照沼小学校や地域住民の方々から参加者を募り、砂防林の歴史やその大切さを学び、植樹体験を行ってきました。このリジェネプロジェクトには、5年間で約300人の方が参加し、植樹した黒松は2100本を超えます。多くの方の手により、村松晴嵐の碑から砂防林造成の碑、八間道路にかけて、おおよその植樹が完了し、一つの節目を迎えました。

黒松の成長を共に見守っていききたい



根本樹苗園 根本 和典さん
茨城県林業種苗協同組合

毎年、リジェネプロジェクトで植樹する黒松の苗を提供しています。提供している苗は、松枯れに耐性のある特別な苗（抵抗性黒松）で、センチュウを授与し、耐性が確認できた苗を母樹として増殖させています。黒松は、①乾燥に強い②塩害に強い③大きく育つなどの特徴から、砂防林に適した品種です。トベラなど塩害に強い木は他にもありますが、乾燥に強く大きく育つといった3つの特徴全てを兼ね備えている木はそう多くありません。プロジェクトで植えた苗木は、5年もたてば樹高が2メートルに達します。植えた時は赤ちゃんの苗木ですが、それが大きな松林になっていきます。毎年足を運び、立派に成長していく過程を皆さんと一緒に見守っていただければうれしいです。



三次 妃織さん
株式会社ヒロエンジニアリング

大人も子どもも貴重な体験ができる

「広報とうかい」を通じて、このリジェネプロジェクトを知りました。植樹という他ではなかなか体験できない点に魅力を感じ、自社の社員にも声を掛け、毎年数人の社員と共に参加しています。

参加した感想を一言で表すなら、率直に「楽しい」です。感覚的な表現にはなってしまいますが、自分で植えた黒松は我が子も同然でいとおしいです。毎年足を運んでいるので、苗の成長も実感できます。自分が植えた黒松に身長を越された時は、驚きと感動が込み上げてきました。

リジェネプロジェクト第2期がスタートすると聞いた時はすぐうれしかったです。参加するたびに新しい知識や経験が得られるので、これからもこのプロジェクトに参加していきたいです。

村松晴嵐黒松林の過程

植樹開始から5年
— 令和7(2025)年4月撮影 —



松枯れ後
— 平成31(2019)年2月撮影 —



松枯れ前
— 平成25(2013)年2月撮影 —



「村松晴嵐クロマツ林MAP」を手にぜひ村松海岸へ足を運んでください

今回の特集で紹介したスポット(村松晴嵐の碑・八間道路等)やリジェネプロジェクトで植樹した黒松の場所をまとめたマップ「村松晴嵐クロマツ林MAP」を村公式ホームページで公開中です。このマップを手に現地を歩き、砂防林の歴史を振り返るとともに、植樹した黒松の成長を一緒に見守っていきましょう。▲詳細はこちら

